

赤き精 はなみ 花実を結び なきとし 先年と

なごり 春を名残に去りし君かも

令和四年五月十六日

大中臣正比呂



桜が散り、葉桜となり更にサクラランボの季節に到る頃、

若者達は新しい生活を送っていることだろう。

新しい学校、新しい職場、そして新しい出会いの季節である。

歳を重ねた者達は、次の桜の季節が来るかは定かではないが、

自然は春を結実させ、次の花見の季節を期す。

あなたに会うのは、もうないかも知れないが、

残していった春の情熱は密かに未だ息づいている。